

米とウクライナ共謀の生物兵器開発：露国防省による全文

(すでに訳された 5/11 掲載分への補遺)

<https://telegra.ph/Briefing-on-the-results-of-the-analysis-of-documents-related-to-the-military-biological-activities-of-the-United-States-on-the-t-05-11>

ウクライナ領土におけるアメリカの 軍事-生物学活動に関する文書の分析結果を公表する

May 11, 2022

ロシア国防省は、アメリカと NATO 連合の、ウクライナ領土における、軍事-生物学プログラムの実行に関する資料を研究し続けている。

我々はすでに Robert Pope について言及した。彼は「共同の脅威軽減プログラム」の監督であり、「キエフの高度に危険な微生物の中央保管所」というアイデアを表明している。

2022 年 4 月 10 日の声明で、ポープは「生物兵器の開発に関係する研究が、ウクライナで行われているという主張には何の理由もない…」と言った。彼はそれ以前に「アメリカ人がウクライナ人と共に最初に仕事を始めたとき、生物兵器は発見しておらず、今も発見していない。その上、ウクライナには、生物兵器を開発し生産するインフラストラクチャーが存在しない…」と言った。

忘れないでいただきたいが、「生物兵器」biological weapons という言葉には、病原体をもつ微生物や毒物の生物学的な構造式とともに、この構造式を伝えたり使ったりする手段も含まれている。

ウクライナ人の健康管理として名が出るのは、HIV、ポリオ、はしか、肝炎のような、社会的に重要な病気だが、アメリカの顧客たちは、完全に異なった名前に興味を持っている——コレラ、野兎病 (tukaremia)、ペスト、ハンタウイルスなど。

ウクライナ領内での、特別軍事作戦の結果として、生物兵器になり得るものとして、特定された病原体の実用の事実が明らかにされた。それと同時に注目されたのは、ウクライナが製造会社に注文を送っていたことで、彼らは噴霧器を備えた「バイラクトル」ドローンの可能性を打診していた。

加えて3月9日、3機の無人の、30リットルのタンクを備え、特定の物質の散布装置をもつ飛行体が、ヘルソン地区の、ロシアの偵察隊によって発見された。4月の終わりには、更に10機のドローンがKakhovka近くで発見された。

すべてのこうした情報は、アメリカの専門家の声明に疑問を投げかける。

我々は前から、ウクライナにおけるアメリカの、生物研究所や研究施設の共同利用を指摘していた。その最初の分析から、ウクライナは基本的に、生物兵器の構成物の開発と、新しい薬剤サンプルのテストのための、試験場であることがわかる。

．．．．．(既報数十行省略)．．．．．

(アメリカに参加するドイツの)新しい文書は、2016から2019の間だけでも、ウクライナの25地域に住む市民、2,500人の血清サンプルが、ドイツ連邦国防軍微生物研究所の軍の疫病学者によって、採取されていたことを明らかにした。

獲得されたこの文書はまた、ウクライナの生物研究所の、ポーランドとの関りを示している。ポーランド獣医研究所が、ウクライナの狂水(狂犬)病ウィルスの、疫学的な脅威と拡散の、査定を目的として研究していることが、確認された。その性格を示すものとして、この問題の研究は、ペンタゴンの鍵的請負業者である、アメリカをベースとする Battelle 研究所と、共同で行われていた。

加えて言えば、ポーランドによる、Lvov 医科大学への財政援助が明かになったが、この大学はアメリカの軍事-生物学プロジェクト、「疫学・衛生学研究所」のメンバーになっている。この組織は、2002年以来、二重使用の資料とテクノロジーを扱う、専門家のための再トレーニング計画を行っている。

ロシア軍による特別軍事作戦は、ウクライナにおける生物事故についての、更なる情報の獲得に成功している。

例えば、資料の示すところでは、ある複数の医薬品に抵抗を示す、結核の病原菌が、2020年に故意に使用されて、ルガンスク人民共和国の Slavyanoserbsky 地区の住民たちが、感染させられた。

ニセ札の形に作られたチランが、結核菌を付着させて、Stepovoe 村で未成年者の間に配られた。この犯罪を組織した者たちは、子どもたちが「何でも口に入れ」、手を洗わずに食べ物を掴むことを計算に入れていた。

細菌学研究の結果は、結核菌によって生ずる病気が特に治りにくく、その治療費は特に高価であることを確認している。

ルガンスク共和国の「衛生・疫病ステーション」の結論によれば、「…この紙札の汚染は、人工的に起こされたものである可能性が非常に高い。それはこの材料が、極端に危険な、集中的な形で、この病原体を含んでいて、結核の感染と発現が確かだからである。」

ルガンスク共和国の「TB（結核）調剤室」主任も、その結論で、「…この紙札が、高度に病原となるバイオ材料で、意図的・人為的に汚染された、ありとあらゆる徴候がある」と述べた。

我々は以前に、保護されているとは最も考えられない人々——ハリコフ地区の精神科病棟 No.3 の患者たち——の一人に与えられた、危険の高い生物ドラッグの試みについて報告した。

我々はまた、精神科病棟 No.1（ストレーチ村、ハリコフ地区）の、ウクライナ市民たちに対するペンタゴンの、非人間的な実験の詳細を明かす、新しい情報を得た。被験者の主たるカテゴリーは、40 から 60 歳の、身体的消耗の高い段階の、男性グループだった。

アメリカとの関係を隠すために、この生物研究の専門家たちは、第 3 国を經由して旅をした。ここには、こうした仕事に直接かかわっている、フロリダ出身の Linda Oporto の写真がある。

2022 年 1 月、この実験を行っていた外国籍の人々が、ある緊急事態で解散させられ、彼らが使っていた装置と薬品は、西ウクライナへ運び去られた。

ロシアの防衛省スペシャリストは、マリウポリの 2 つのバイオラボで、直接、仕事を行ってきた。

米軍施設でのこの仕事を確認する、緊急の文書破壊の証拠が手に入った。存在する文書の当初の分析は、マリウポリを、コレラ病原体の収集と証明書のある地方センターとして、使っていたことを示している。

選ばれた株（複数）は、キエフの公共ヘルスセンターに送られ、これはバイオ資料をアメリカに回送する使命をもっている。これらの活動が 2014 年以来、行われていることは、変種株の移送によって証拠づけられた通りである。

2022年2月25日の日付をもつ、収集病原体の破壊行為——証拠によれば、コレラ、tularemia、それに炭疽菌がそこで扱われていた——は、衛生および疫病学研究所で発見された。

獣医学研究所のコレクションの一部は、大慌てで破壊されてはいなかった。安全の確保と蓄えられたものの安全を守るために、124の株がロシアの専門家によって輸出され、その研究が組織化された。

我々は、マリウポリ生物研究所から受け取られた、資料の全体を調査し続け、その結果について、皆さん方にお知らせするだろう。

.....(すでに訳された十数行省略)

[訳者 Greatchain 注]

病原菌を使って、信じ切った罪のない人々を殺すやり方は、アメリカ原住民に、天然痘菌のついた毛布を進呈し、大量に死なせた開拓時代からの伝統である。これが今、手段を巧妙に大きく進歩させて、ウクライナで行われていることが、よく分かる。特にルガンスクという親露地区が標的のようだが、狙いはウクライナ全土のようだ。

「可哀そうなウクライナ」を支援しようという団体や国家は、その援助がどこへ届くのかを確かめねばならない。おそらく、ここ(前の記事)に書かれているように、「アメリカの民主党の指導者」という、世界で最も有力な、サタン信仰者たちの手に渡るであろう。そしてそれは、このようなロシアの努力がない限り、永久に発覚しなかったであろうものである。

わが国は文化国家だから、ウクライナのようなことは起こらないだろう、というのは大間違いである。ワクチンは、ウクライナで研究されている生物兵器と、本質的に同じである。大量死が全世界的に起こっている。原因の分からない子供の病気などが起こっている。こんなことが自然に発生するはずはない。「結核菌のついたチラシ」のようなものは、子どもを狙って、いつ、どこからでも作られると考えねばならないだろう。